

# 日本共産党

# 小平市議団ニュース

No.128 2011年 8月



木村まゆみ  
☎344-4928



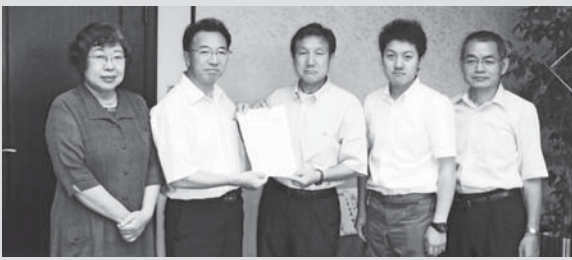
佐藤みつる  
☎343-0831



すえひろ 進  
☎343-7268



ほそや 正  
☎345-0818



「放射線から子どもを守れ」申し入れ（7/20。左から木村・佐藤両市議、小林市長、ほそや・すえひろ両市議）

福島原発による放射能被害は、収束の目途が全く立っていません。この間の東京電力や政府の対応で、原発技術は「安全神話」に過ぎず、危険極まりないことが明らかになりました。原発ゼロに向かってプログラムの策定し、努力するべきです。六月十三日、日本共産

意見書を求める請願が市民団体から出され、全会一致で採択、政府に送付されました。

6 月市議会

# 原子力推進から自然エネルギーへ転換を

（意見書骨子は次ページ）

党は提言「原発からのすみやかな撤退、自然エネルギーの本格的導入を——国民的討論と合意を呼びかけます」を発表し、対話と共同の取り組みを進めています。時期を同じくして、そのことを求める意見書が小平市議会から全会一致で出された意義は大きいと考えます。

## 放射能から子どもたちを守って…市はこの声に応えよ

子どもたちの放射能汚染を心配する保護者からの請願も出されました。もっと迅速に、きめ細かく放射線量を市で計測してほしい、線量計を市民に貸し出してほしいというものです。6月の生活文教委員

小林市長殿

## 市が独自に放射線量を計測し公表することを求める要望書—その2

2011年7月20日 日本共産党小平市議団

- ①東京都と同レベルの線量計を大至急購入し、6ポイントで、当面は週1回計測・公開し、今後、ポイント数や計測回数を柔軟に対応していただきたい。
- ②入手までは業者に委託して、①と同様の措置を。
- ③入手後は、直ちに市で直接計測する。その際は学校に加えて公園などポイント数を増やすこと。
- ④そのための臨時職員を雇用し、来年度以降の体制を今から準備すること。
- ⑤簡易型の貸し出しを直ちに行う。その結果を、簡易型ということを知り、公共施設及びそれに準ずる施設（私立幼稚園など）に張り出すこと。
- ⑥ホームページをだけでなく紙ベースでの周知を。
- ⑦学校給食の食材について、産地を公表すること。
- ⑧当面、東北3県のものや、通常値よりも明らかに高い数値を示すものは、避ける。
- ⑨空間・土壌・プールの水・食物の各線量の安全基準値を国に定めさせる。

会では結論が出ず、継続審議になっていきます。

## 党市議団は二度にわたって市長に要望書を提出

去る六月三日党市議団は計測や公表を求める要望書を提出しました。小平市は学校など6ポイントと3か所のプールの放射線量を計測、結果を公表し、今後は月1回実施

するとしています。党市議団では、それでは不十分と考え、二回目の申し入れを行いました。（写真は上、申し入れは右の九項目です。）



# 議会での任務も決まり、4人の市議団で 元気いっぱい活動しています



自治体学校にて（7/25左からすえひろ進・佐藤みつる・木村まゆみ・ほそや正の各市議）

## 木村 まゆみ（党市議団長・副幹事長）

生活文教委員長・議会改革調査特別委員・多摩六都科学館組合議員・都市計画審議会委員・小平文化振興財団評議員。

## 佐藤 みつる（党市議団幹事長）

監査委員・総務委員・議会改革調査特別委員会副委員長・小平市住居表示整備審議会委員・三鷹／立川間立体化複々線推進協議会委員。

## すえひろ 進（党市議団副団長）

厚生委員・議会運営委員会委員・小平市民生委員推薦会委員。

## ほそや 正（党市議団会計責任者）

建設委員・防災対策調査特別委員・農業委員・小平村山大和衛生組合議員・議会報編集委員。

# 災害に強く、くらし・いのちを守る第一歩に

## 2011年度一般会計補正予算が全会一致で可決

2011年度一般会計補正（第1号）は、約2億5,000万円の補正（総額で590億8,500万円となる）が生まれ、全会一致で可決されました。

今回の補正の特徴は、防災対策として、防災倉庫を新築すること（約

1,000万円）、家具転倒防止器具を希望する市民に無料で提供する事業（6,150万円）、東京都と合同での防災訓練、エリアメール配信を行なうなどです。

そして、聞きづらいと市民から指

摘が多かった防災無線は、予備費で調査することになりました。

また、認知症高齢者グループホーム・小規模多機能居宅介護施設を建設への補助の増額、大腸がん無料検診のクーポン券配布、雇用創出など医療・福祉が充実します。商店街活性化の一助となるプレミアム付き商品券発行が予算化され、東日本大震災の被災者支援に役立つものとして商工会が事業化することへの補助が決まりました。

この補正予算をはじめ6月議会での議論は、日本共産党が市議会議員選挙で公約した『いのちを守る福祉、防災のまちづくり』への第一歩になりました。

## 小平市議会の予定

9 月

5日(月) 本会議(初日)  
6日(火) 代表質問  
7日(水)～9日(金) 一般質問  
13日(火) 総務委員会  
14日(水) 生活文教委員会  
15日(木) 厚生委員会

16日(金) 建設委員会  
請願、陳情締め切り（午前中）  
20日(火) 防災対策特別委員会  
21日(水) 議会改革特別委員会  
30日(金) 本会議（最終）  
いずれも9時から市役所7階です

## 今やるべきことは 公立保育園の民間委託ではなく 認可保育園の増設

6月16日の厚生委員会閉会后、「小平市立鈴木保育園の私立保育園への移行ガイドライン作成について」事務報告がありました。すえひろ進議員の質問で、

①認可保育園に入れない待機児は300人を超えている②鈴木保育園の耐震診断はすでに終了し、基準をクリアーしており建て替えの必要はない等が明らかに。続いてすえひろ議員は「いま保育行政に求められていることは認可園を増設して早期に待機児童を解消することであり、公立保育園の民営化ではない」と指摘し、市立園の存続を強く求めました。

## 熱中症対策と日曜保育と日曜学童

◆熱中症に気をつけて元気に夏をのりきって下さい！



小平市では、一人ぐらしの高齢者、エアコン未設置の方等を訪問し、冷水スカーフを届けて、熱中症の予防を呼びかけています。また、日中猛暑時の避難所として、地域センター、高齢者館等9月20日まで開放しています。

この事業については、冷水スカーフを届けるお宅をどうやって探すのか、避難所では横になれるのか、など市民の方からたくさんの声が寄せられています。

何よりも日常普段から心配なお宅を見守ることが大事と痛感。民生委員さんや包括支援センターが動きやすいように、行政が責任を持ってシステム作りを。

◆日曜保育、日曜学童クラブが実施されています

節電対策として、就業時間の変更や日曜日に働く職場が増えてきています。小平市ではこれらに対応し、8・9月に日曜日保育と日曜日学童クラブを開設しています。対象児童、実施施設、実施日などは市役所の保育課・児童課（☎346-9594・9543）にお問い合わせください。

電力不足やエネルギー問題では、私たちは、企業のあり方も含めて暮らし全体の見直しを迫られているのではないのでしょうか。そうだとすると、必要な子どもたちには安心の事業ですね。

1  
面  
関  
連  
の  
意  
見  
書

## 原子力推進から省エネルギーや再生可能エネルギーを中心としたエネルギー政策への転換を求める意見書（骨子）

原子力発電は大量の核燃料廃棄物を排出します。地震が多い我が国にその最終処分場を確保することは困難です。省エネルギーや再生可能エネルギーを中心とした政策への転換が必要です。

太陽光、風力、地熱などは密度は低いですが広く大量に存在し、枯渇することはありません。

2011年5月9日現在、原子力発電所から供給される電力の6割が停止していますが、最大需要電力をカバーできています。政府は再生化のエネルギー比率を2020年に10%にしていますが、原子力発電への依存を減らしながら省エネルギーや再生可能エネルギー比率を拡大することは可能です。

小平市は地域エネルギービジョンを作成し、太陽光発電日本一を目指すことを宣言しました。今こそ、真に安心・安全でクリーンなエネルギーの供給が国民から求められています。

よって小平市議会は、国会及び関係行政庁に対し、原子力推進から省エネルギーや再生可能エネルギーを中心としたエネルギー政策へ転換するよう求めます。

内閣総理大臣、衆・参両院議長、経済産業大臣、  
環境大臣 宛

小平市議会

## 聞こえにくい防災無線の改善の見直し

3.11以降、「防災無線が聞こえない」「高さが低いのでは」などの声が寄せられました。党市議団は3月16日に改善を求める申し入れを行ったところですが、6月本会議初日のほそや正議員の質問により予備費800万円で設備点検・実態調査を行い、改善

を進めることが明らかになりました。防災無線は市民にとって災害

時には貴重な情報源です。1日も早い改善を引き続き求めます。



## 車いすのまま乗れる コミュニティタクシーが実現

栄町ルートでは、7月6日から、車いすのまま乗車できる新車両が走り始めています。



定員は、車いす1台を含んで10名。タクシー

という名称ですが、座席はバスのように横並び、乗降時段差解消のために幅の広いステップ板が出るなど、高齢者や足の不自由な方に優しい工夫がされています。小川・栄町地域を中心とした市民の声でまた一步前進しました。

# 6月議会 一般質問



木村まゆみ市議

1、子どもたちへの最善の利益を念頭に教育条件の整備を図れでは、  
① 小学校給食の民間委託問題で、偽装請負など法的問題について質問。栄養士が直接調理員を指導することはできないが現場責任者と打ち合わせすることはできることを市教委は東京労働局に確認したが、現場から意見聴取していない。民間のセンター給食での中学校は計画停電中の1週間パンと牛乳のみかんが一つづつだったことが明らかに。直営の小学校は工夫して給食提供できた。民間よりよほど柔軟。② 市内A中学校特別支援学級で担任が2人も欠員になっていることを質問。支援員増員である程度改善されたが、担任をきちっと配置する事を強く求めました。

2、鈴木保育園を廃園せすに残して私立認可園増設を求めた他、被災者支援、介護保険の充実、など4件を質問しました。



すえひろ進市議

市議選で訴えた政策のなかから5つの質問をしました。

① 75歳以上の通院分の自己負担額の助成を、② 子どもの医療費助成の所得制限撤廃を、③ ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸がん予防ワクチン接種費用の全額助成を、④ 前立腺がん検診と骨粗しょう症検診の新設、⑤ 東部方面ににじバス・コミタクの路線開設を。

この質問で、実施に必要な予算額、また3つのワクチンでは接種済みの子どもがきわめて少ないこと、にじバス・コミタクの開設では8月には検討組織の立ち上げなど今後の日程を明らかにすることができました。

これらの審議を土台に今後の議会で市民のみなさんの願いの実現に全力を注いでまいります。



ほそや正市議

1、住宅耐震補強等の助成実績と今後の予算拡充について質問。

現在の予算は、耐震診断上限5万円15件分、耐震改修上限30万円8件分です。耐震助成の予算増額について、診断は上限10万円に、耐震改修は上限50万円とすることを求めたのに対して、近隣市と比較しても平均的。私有財産に対する公費の補助としては現時点では適切な水準で、増額等は考えてないなどと答弁。

2、地域防災と災害時要援護者支援について。災害時要援護者支援の拡充を強めたことは評価。市は、名簿整備し、推進モデル地区との意見交流を取り組んできた。今回の震災後1045名から聞き取り調査を行った、と答弁。名簿登録者は全員で2310人であり全員の調査を要望しました。

他に、防災協定の拡大・充実について質問しました。



佐藤充市議

小平市監査委員として、さらに市民の願い実現へがんばります

党市議団から監査委員が選任されるのは初めて。監査委員は、市の予算が不正なく執行され、行政が市民のために民主的に運営されているかをチェックする役割があります。市民の声とこれまでの経験を生かし、役割を果たしていきます。市議会では、議長、副議長、監査委員は、代表質問、一般質問を自粛するとの申し合わせがありますが、あらゆる機会をとらえ、公約実現、市民の要求実現のために、全力を尽くします。

いま、耳の不自由な市民からの意見をきっかけに、公共施設に磁気ループ（集団補聴システム）を設置、活用するよう働きかけられています。また、市の消費者生活相談窓口の活動がいっそう充実されるように、国が支援を強化することを求める意見書を議案として提出しました。8月の生活文教委員会審査されます。